

維新党大会で「核共有」

27日の日本維新の会の定期大会で馬場伸幸共同代表らは、ロシアのプーチン大統領が核兵器でウクライナや国際社会を威嚇していることを口実に、改めて「核共有」と非核三原則見直しの議論を進めるべきだと主張し、同党の異常な姿勢を示しました。

馬場氏の「いろいろな問題をタプー視せず」「核の共有問題、非核三原則を議論すべきではないか」とい

軍拡の「突撃勢力」鮮明

う主張は、「核共有を」議論していくことをタプー視してはならない」という安倍晋三元首相と同じです。軍事費の大増額、中距離ミサイルの配備とともに非核三原則の見直しを求めている改憲右翼勢力とも同じ志向です。維新は国会でも憲法審査会の開催の先頭に立ち、「力には力」の立場から9条改憲に激しい執念を燃やしています。

プーチン大統領が核兵器

の先制使用を国家の基本戦略にし、自国民にどんな甚大な被害が出ようと核兵器の先制使用をためらわない姿勢を示す中で、核を互いに保有することで平和が保たれるという「核抑止」が無効となつていきます。にもかかわらず「核共有」実現を進めようとするのは、平和への逆行と誓わざるを得ません。

自公の「補完勢力」にとどまらず、軍拡・改憲の突撃勢力というべき維新に、厳しい批判が起ることは避けられません。

(若林明)